

よいことのために
手を取りあおう

THE ROTARY CLUB OF PORT NAGOYA

Weekly Report

名古屋みなと

2025~2026

承認 1966年 5月12日 例会日 金曜日 12:30

例会場 名古屋マリオットアソシアホテル

事務局 TEL 052-221-7020 FAX 052-221-7023

E-Mail office@portnagoia-rc.com

URL http://www.portnagoia-rc.com

会長 室原 國彦 幹事 沼野 明

公共イメージ向上委員長 小椋 由美子

THE MAGIC OF ROTARY ロータリーのマジック R.I. 会長 フランチェスコ・アレツォ



第 2777 回例会 No.33

2026年(令和8年)5月14日(木)~
15日(金) 1泊2日

家族旅行会
能登復興支援

『千の光、千の未来 プロジェクト』と
和倉温泉

例会変更(5月15日)

出席報告

会員 67名中 27名 出席率 40.29%

○ゲスト パートナー 12名

能登復興支援

『千の光、千の未来 プロジェクト』と和倉温泉 2日間 **旅行日程表**

1日目 5月14日 木 食事 朝:なし 昼:○ 夜:○

時間	スケジュール
8:15	発 名古屋駅西口 銀時計前 名古屋高速・東海北陸道
12:15 ▼ 14:00	ひみ番屋街 (昼食)と ショッピング
15:00	着 七尾駅
15:38	発 七尾駅 <農災語り部観光列車>
16:23	着 穴水駅
17:00	着 和倉温泉 夕食は飲み放題付プラン

2日目 5月15日 金 食事 朝:○ 昼:○ 夜:なし

時間	スケジュール
8:30	発 和倉
9:50 ▼ 10:20	輪島市役所にて贈呈式
10:40 ▼ 12:00	着 輪島 ・道の駅千枚田ポケットパークにて除幕式と田植え体験 ※足を洗うシャワー有り ・町野地区の見学と「もとやスーパー」の訪問
12:20 ▼ 13:30	昼食は市役所の支所会議室にてお弁当予定
	千里浜なぎさドライブウェイ経由 <北陸・名神道>
19:00	着 名古屋

会長挨拶

会長 室原 國彦さん



あらためまして、皆様こんにちは！本日は能登復興支援・家族旅行にご参加いただき、誠にありがとうございます。

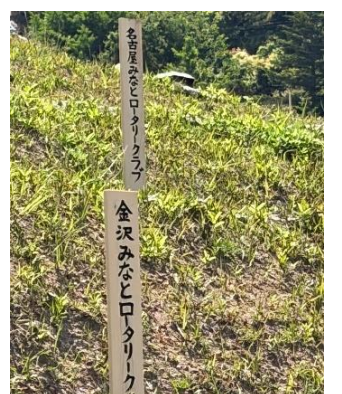
先月の4月21日に10年に一度のイベントである創立60周年記念式典が無事に評判よく終わることが出来ました、皆様が式典を盛り上げて頂きありがとうございました。先日の60周年記念式典でも説明させていただきましたが、私たちは約2年間をかけ、友好クラブである金沢みなとロータリークラブと連携しながら、能登復興支援という大きな奉仕事業に取り

組んでまいりました。その 60 周年記念奉仕事業として掲げた「能登復興支援は 3 つ」ありましたね！明日はその復興支援の現地にまいります。

1 つ目は、町野地区の昨年 1 月に布団乾燥機 200 台を寄贈しました。2 つ目は、同じく町野地区に 4 月に桜の苗木を寄贈しました。3 つ目は、イルミネーションを寄贈する白米千枚田です。実は、クラブ員の中でも、この能登復興支援奉仕事業に実際に関わったメンバーはほんの数人です。

今回の家族旅行でより多くの会員の方、パートナーの方に現地を見て頂き、我々の奉仕活動のご理解を深めて頂く事ができたならうれしく思います。本当に、この一年間の皆様のご協力に感謝いたします。今宵は、ゆっくり楽しんでください。以上会長挨拶でした。







2 博士号取得状況

2025 学年度に博士号を取得した奨学生は30人、学友は18人となり、これまでの累計は4,275人となりました（5月1日現在）。

米山記念奨学会では、博士号を取得された奨学生・学友の皆さまへお祝いとして腕時計を贈呈しています。裏ぶたに氏名を刻印した世界に一つだけの記念品です。なお、クラブ会員の皆さまに米山奨学事業の成果をご報告いただく機会として、原則としてクラブ例会での贈呈をお願いしております。これをきっかけに学友との交流が再開されたとの報告をいただくこともあります。博士号を取得された奨学生・学友がいっぱいありましたら、当財団事務局までご一報くださいようお願い申し上げます。



文字盤の裏に氏名を刻印

申請方法

・奨学期間終了後の取得でも対象です
 ・お届け先は、原則として世話クラブです（納品まで約2〜3週間かかります）

「学位記の写し」もしくは「学位取得証明書」と、当財団書式「博士号取得報告書」の2点を世話クラブから米山奨学会へメールや FAX などでお届けください（FAX:03-3578-8281 / email: alumni@rotary-yoneyama.or.jp）

3 寄付金速報 — 今年度も残り1カ月半 —

4月末までの寄付金は、前年同期と比べて **-2.4%** 減りました。

4月までの寄付金は、前年同期と比べて
 2.4%減（普通寄付金）
 0.5%増、特別寄付金：
 3.9%減、約2,800万円の減少となりました。

た。創立記念寄付として14クラブより計185万円の特別寄付をいただいたほか、100万円を超える大口寄付が3件ありました。皆さまからのご支援に、心より厚く御礼申し上げます。今年度も残りわずかとなりましたが、当事業へのご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

4 同じクラブから2人同時に紺綬褒章受章

第2760地区知立RCの大橋均氏と安井啓秀氏が、2025年11月22日付で紺綬褒章を受章しました。同一クラブから2人同時に受章されるのは、当財団では初となります。

4月22日の同クラブ例会にて、褒章伝達式が行われ、出席した当財団の神野重行常務理事から褒章が伝達されました。

紺綬褒章は、公益のために私財を寄付し、その功績が顕著な個人または団体に対して天皇陛下より授与される褒章で、当財団は2018年9月に紺綬褒章の公益団体認定を受けています。受章された皆さまに、心よりお祝い申し上げます。

5 米山奨学生を連れて奉仕活動へ

2月28日から3月3日にかけて、第2590地区横浜鶴見北支RC会員を中心とする16人が、同クラブの米山奨学生の母国であるマレーシア・ペナン島を訪問しました。

現地では、障がい者就労支援施設を訪問し、活動資金を寄付したほか、パティック染めなどの活動を視察し、参加者も製作を体験。また、滞在中にはマレーシア米山学友会の学友たちとの夕食会が開催され、翌週に控えていた同学友会総会へのお祝いを手渡すとともに、各地で活躍する学友たちの近況に耳を傾けました。

同クラブでは毎年、米山奨学生や学友と共に奉仕活動を続けています。かつて世話をしたベトナムやタイの米山学友とも深い縁が続いており、現地での奉仕活動や、災害時の支援を学友に託すなど、強い信頼関係を築いているようです。

参加した石渡宏衛会員は、「学友を介して、現地で本当に支援を必要としている方々に直接会うことができます。共に活動することでクラブ内の米山奨学事業への理解もより一層深まっています」と語り、学友と行う国際奉仕の意義を再確認する機会となりました。

6 米山学友がロータリー入会、そしてカウンセラーに

今回は、かつての世話クラブに入会し、今年度から米山奨学生のカウンセラーを務めることとなった韓瑜さん（2013-14/東京米山友愛RC）のインタビューをご紹介します。

【韓瑜さん】

米山奨学生としての期間終了後、学友会活動を通じてロータリーのつながりに感謝を受け、クラブの先輩方からお声がけいただいたことで、入会を決めました。以前は支援を受ける側でしたが、会員となった今は「恩返しをしたい」という思いをより強く持っています。奨学期間終了から12年という月日を経て、再びロータリーの原因に立ち、「初心忘るべからず」を銘として再出発できることを嬉しく思います。今と、カウンセラーという役割を受けるにあたり、

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
 〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍堂芝公園ビル3F
 Tel: 03-3434-8681 Fax: 03-3578-8281

E-mail: highlight@rotary-yoneyama.or.jp
 URL: https://www.rotary-yoneyama.or.jp/
 編集担当: 長尾(ながお)



名古屋みなとロータリークラブ事業実施予定

月	日	今後の例会予定
5	22	卓話 17F「コスモス」 愛知大学地域政策学センター研究員 (元愛知大学教授・元地域政策学部長) 新井野 洋一様
	29	休会
6	5	第3回クラブフォーラム 17F「コスモス」
	12	退任挨拶 16F「アイリス」
	19	休会
	26	休会

ハイライトよねやま 314 2025年5月13日発行

1 「受けた恩を次世代へ」米山学友からの高額寄付

米山奨学生として受けた支援を、次世代の奨学生へつないでいきたい、との思いから、当財団へ500万円の寄付をしてくださった台湾出身の米山学友、ウィリアム ファンさん（1998-99 / 海老名名譽RC）のメッセージをご紹介します。

【ウィリアム ファンさん】

奨学生時代、世話クラブの皆さまからの温かい歓迎とご支援を受け、「受けた恩を次世代へつなぐ」ことの大切さを学びました。この気持ちを形にしたいと思い、寄付させていただきました。当時を振り返ると、例会で受けた温かいおもてなしや、私の近況を常に気にかけてくださった会員の皆さまの優しさが深く心に残っています。

他者が自分に与えてくれたポジティブな影響を「忘れない」ことが何より大切だと思います。だからこそ、米山学友として寄付することに大きな意味があると思います。米山奨学事業が米山奨学生に注いでくれる支援に対し、私の小さな貢献が共感を呼び、他の学友たちもそれぞれの立場で恩返しを考えるきっかけになれば幸いです。それが結果として、日本と母国との架け橋を築くという米山奨学会の目的を前進させることにつながると信じています。

勉学に励む米山奨学生の皆さんには、米山奨学会やロータリー会員の皆さまが示してくれた善意とサポートを忘れないでいただきたいです。そしていつの日か、あなたなりの方法でその「恩」を次世代へつないでいってください！